

観光文化委員会



10月13日(火) 広島市において、51名出席のもと、観光文化委員会を開催した。

当日は、議事に先立ち、国土交通省 中国運輸局の九鬼観光部長によるご講演の後、観光文化委員会の2020年度事業計画の中間報告、政府等への要望の方向性について報告・審議を行い、原案どおり承認された。

【講演要旨】

「ウィズコロナ・ポスト コロナの観光戦略」

国土交通省中国運輸局
観光部長 九鬼 令和 氏



■ コロナ禍で観光客は大きく減少

全国の訪日外国人旅行者数は、7年連続で過去最高を更新してきたが、コロナウイルス感染拡大の影響で2020年1～8月の対前年同期比で約8割減、中国地方の外国人延べ宿泊者数も1～7月の対前年同期比で約8割減。中国地方の日本人延べ宿泊者数については、緊急事態宣言が発令されていた4～5月は対前年同期比で7割程度減少したが、6月以降は回復の兆しが見えており、7月は対前年同月比で35%減まで回復している。

■ 観光産業の復興に向け巨額の予算を投入

コロナの観光産業への打撃の大きさを鑑み、1.3兆円の需要喚起策「Go To トラベル」をはじめ巨額の補正予算が組まれた。「Go To トラベル」については、一昨年(2019年)の西日本豪雨の際に行われた10以上の府県を対象にした「ふっこう割」が35億円程度だったことを踏まえると、その規模の大きさは一目瞭然。「Go To トラベル」の利用者数は、7月22日から9月15日までの速報値で、1,689万人泊、割引額は735億円に達しており、国内観光の回復に貢献している。

■ 反転攻勢のための基盤整備

ウィズコロナ、ポストコロナを見据え、基盤整備は不可欠。観光庁は、宿泊事業者の感

染防止対策、観光資源の磨き上げ、観光地での無料Wi-Fi整備など様々な支援を行っている。無料Wi-Fi整備は、観光客の満足度向上に加え、流動が把握でき、これらのデータを分析することで、観光戦略にも活かせるなど大きなメリットもある。

■ 新たな旅行スタイルの普及も必要

我が国の観光の特徴として、土日、正月など特定時期への集中、短い宿泊日数などによる観光消費額の伸び悩みがある。今後は、コロナの影響も受け、休暇の分散化、ワーケーションなどの新たな旅行スタイルの普及を図る必要がある。観光庁において、企業や国民への呼びかけや環境整備などにも積極的に取り組んでいる。

■ 中国地方の観光政策の方向性

「観光」は、「光」を「観」せるものであり、その際、(新たに作るというよりは) もともとある資源を磨き、「光」らせることが重要である。また、「観光」は「文化」とは異なり、あくまでビジネスとして成立させていく必要があるものと考えている。中国地方は、全国の中でも観光消費額が低く、これを上げていくのが喫緊の課題。そのような中、可能な地域は、富裕層をターゲットにした戦略を立て、地域のブランド力を高め、消費単価を上げていくという方法もその一つだろう。

さらに、このコロナ禍も踏まえると、「身の丈にあった持続可能な観光地」も重要である。中国地方には素晴らしい観光資源を持つ地域が豊富にある。これらの資源を上手く活用し、全国モデルとなるような「キラリと光る田舎」を作っていくことも必要である。

(担当: 島末)